

# 防浪陸堤と津浪豫報塔

岩手縣土木課長 上野節夫

## 1 防浪陸堤

明治20年の三陸津浪により、多数の人命と財産とを喪失した岩手縣氣仙郡吉濱村では、その被害直後多大の犠牲を拂つて、海岸に沿ひ空石積(中埋土砂)の防浪堤を築造したのであつたが、昭和8年3月3日、三陸沿岸を襲つた

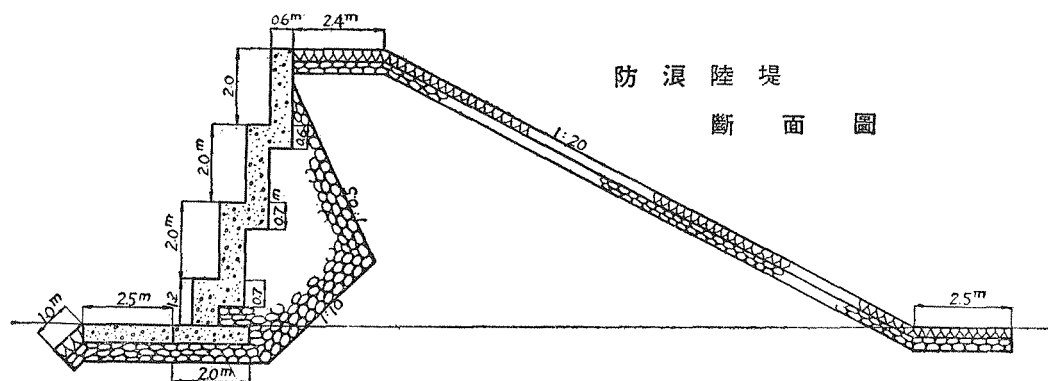
大津浪により、堤は跡方もなく破壊せられてしまつたので、茲に工法を更め、災害國庫補助工事を以て、更に堅固なる防浪陸堤を築造することとなり、成功したのが下の寫眞及圖に示す陸堤である。工事の概要を摘記すると次

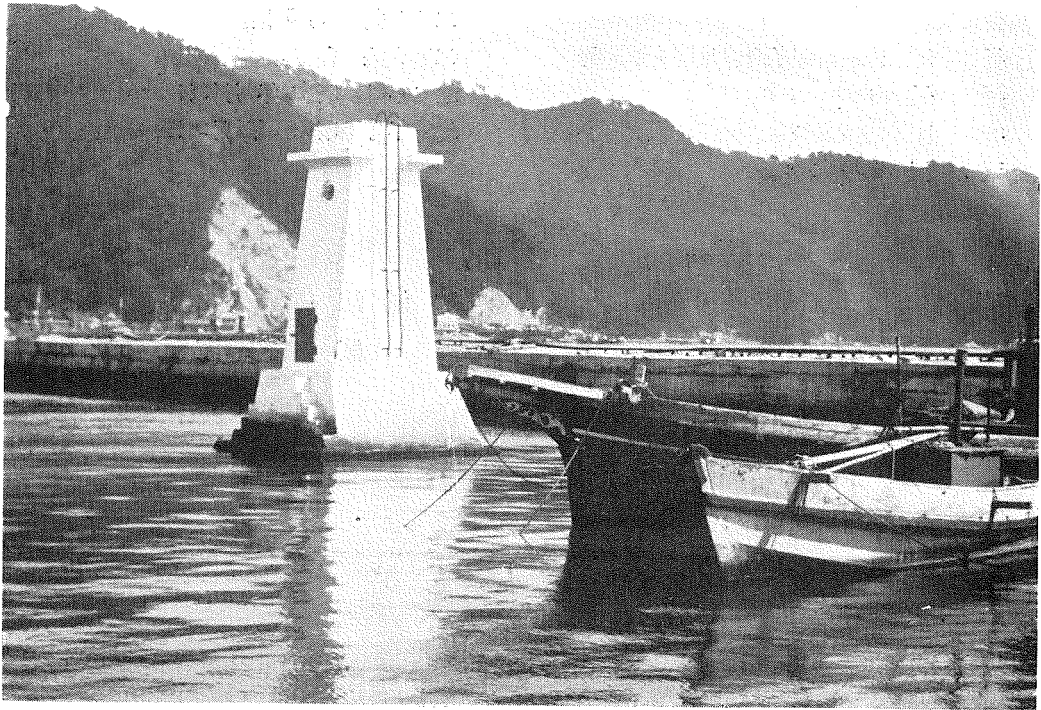


の如くである。

場 所 岩手縣氣仙郡吉濱村大字上野  
延 長 524メートル。  
堤 高 7.2メートル。  
天 端 幅 3メートル。

工 事 費 52,454圓。  
工事方法 請負。  
起工年月 昭和9年3月12日  
竣功年月 昭和10年2月20日





## 2 津浪豫報塔

寫眞は岩手縣釜石港内に新設された津浪豫報塔である。三陸沿岸に周期的に襲來する津浪の前兆として、海水が十數分前に必ず、常に起るべき最干潮位よりも著しく低下することが確められたので、塔内に設けられた電氣閉閉器に、自記檢潮器に使用するものと殆ど同様なる浮標と重錘とを取付け、海水が異常低水位に降下した時には、浮標の上下により自動的に閉閉器の回路を斷ち、電流が通じて要所に備へてある電氣警報器を鳴らし、やがて恐る可き津浪の襲來することを報せるのである。尙本装置は海水が最初から異常高水位に上昇した場合と雖も、同様の働きをする様につくられてゐる。

### 工 事 概 要

場 所	岩手縣上閉伊郡釜石港
塔 高	海底上10.0メートル 滿潮面上6.0メートル
塔 幅	海面上2.0m×2.6×m 海中4.0m×4.5m

工 事 費 3,500圓

工事方法 請負

起工年月 昭和10年1月10日

竣功年月 昭和10年6月16日

費用負擔 義捐金。

(編者附記) 因に本装置は岩手縣土木課長上野節夫氏の考案に係るものである。